



格差の壁

山川 真菜夏

フィリピンで最も治安が良いと言われるマカティ市のコンビニを出た時、
“HEY”

幼い男の子に、無言で小銭が入ったカップを差し出された。通訳の方にすぐにバスに乗るよう促され、そのまま私はクーラーが効いた席に、マンゴージュースと共に座った。ストリートチルドレンに会ったのは初めてだった。お金を渡すべきなのだろうか？ たった数ペソを握りしめながら、バスの中で私はこの問いに対する答えを考えていた。都市の経済格差を目の前にして、その場限りのお金が、貧困を解決するきっかけになるとは到底思えなかった。

研修では JICA の国際協力に河川工事や防災、農業に至るまで様々な形があることを学んだ。それらを見て得た気づきが、支援の土台となる「お金」の大切さである。財布の中の「お金」は、寄付するのではなく、ODA に投資することで、長期的にストリートチルドレンを支援することにつながるかもしれない。

現在高校 3 年生の私は、海外大学で経営・経済学を学ぶことを目指している。たった一本のエッセイから始まった JICA の研修で、私にはビジネスを通じて安定した世界経済を作り、支援を求めている発展途上国の人々のニーズを満たしたい、という目標ができた。格差の是正へ向けて何が正解か、自分の出した答えに自信を持てるまで学問に勤しむことが、問題解決への第一歩になると私は信じている。フィリピンで味わった無力感を、私は忘れない。